

温かい支えに感謝

校長 石原 加代子

西門の紅梅が鮮やかに咲き始め、春の訪れを知らせています。ご多用の中授業参観・懇談会にご出席いただきありがとうございます。保護者の皆様におかれましては、毎日の体調管理など、ご理解・ご協力をいただき心から感謝申し上げます。

今年度も残り1か月となり、地域・保護者の皆様から寄せられた学校評価や子どもたちの姿などをもとに本校の教育活動の成果と課題をふり返っています。

今年度は、創立50周年を柱に人とかかわる機会を大切にしながら教育活動を進めてきました。子どもたちは主体的に深谷小・深谷のまちにかかわり、まちの人の思いを理解したりつながりを深めたりすることができました。相手に応じて適切な話し方や伝え方を考える必要感があり、豊かに表現する力の育成にもつながりました。子どもたちが中心となり創りあげてきた様々な取組により、深谷小・深谷のまちを愛する心を育て、支えてきてくださった方々への感謝の気持ちを高めたことは、成果の一つでもあります。

また、一人ひとりの成長がみられたことも嬉しい成果です。授業参観では、成長を感じていただけたでしょうか。特に、6年生は最高学年として、たてわり活動や委員会活動など、一人ひとりがリーダーとなり、緊張しながらも頑張ってきました。その積み重ねが、今の6年生の姿です。4月に比べ、なんてたくましく凛として行動できるようになったことでしょうか。卒業文集には、「不安と葛藤しながら勇気を出して挑戦したこと・自分も友達も大切にしたい思い・あきらめずに努力しようとする意欲」が溢れています。創立50周年記念スローガン「50年のバトンを未来へ～優しさつなぐ深谷っ子～」を自ら行動で示し、最高学年として深谷小を支えてきたことを頼もしく思います。

さて、横浜市学力・学習状況調査結果によると、本校は市平均と比べて学習意識は高いのですが、学力の定着に課題がみられる傾向があります。この結果を真摯に受け止め、学習意欲が成果につながるように授業改善に努め、より一層基礎基本の定着を図っていかねばならないと思っています。学校運営協議会では、子どもたちを取り巻く言語環境や読書も、豊かな言語を身に付けることに有効であることが話題になりました。家庭とも連携しながら、子どもたちの資質・能力の向上が図られるようにしていきます。

学援隊や共育ボランティアネットワークの皆様をはじめ、たくさんの方々が無事な教育活動を支えてくださいました。深谷小学校区盆踊り実行委員会の皆様におかれましては45年もの間『ふるさと深谷』を創り、本校の教育活動も温かく支え続けてくださいました。心より感謝申し上げます。これからも、地域・保護者・学校が連携して、深谷のまちの子どもたちを大切に育みたいと思っています。変わらぬ温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

